

2021 年 8 月 19 日

学校法人 近畿大学
理事長 世耕 弘成 殿

近畿大学教職員組合
執行委員長 阪本 洋三

団体交渉要求書

新型コロナウイルスの変異株のひとつであるデルタ株は、水痘に匹敵する感染力をもつという報道がある。学校法人近畿大学（以下、貴法人）はセルフプロテクションを学生に呼びかけてきたが、水痘に匹敵する感染力をもつのであれば個人のレベルで感染を予防することは極めて困難になる。加えて、貴法人が公開している学生のワクチン接種状況は、7月12日現在で1回目の接種率が約6割にとどまり、集団免疫の獲得にはほど遠い。さらに、そもそも集団免疫の獲得は不可能だとするオックスフォード大学ワクチングループの見解も報道されている。

こうした情勢に鑑みれば、授業形態についても楽観論に基づくのではなく、学生・教職員の安全を確保するという観点から方針を決定すべきである。車の運転に際して「だろう運転」ではなく「かもしれない運転」が要求されるのと同様である。近畿大学教職員組合（以下、本組合）は、2021年度後期の授業形態について、貴法人に対して以下の点を要求する。

1. 貴法人は学生をキャンパスに呼び戻すという方針のもと、今年度前期から対面授業にこだわっているが、未曾有のパンデミックの最中に対面授業を強行する目的を答えよ。「対面を望む学生のため」ということであれば議論ができるが、そうでないのであればそもそも議論が成り立たないため、確認したい。
2. 授業形態の決定にあたっては、本組合は学生・教職員の安全が最優先であると考えているが、貴法人が同様の認識か回答せよ。
3. 入構制限に関する最新のステージ表（以下、ステージ表）では、たとえばステージⅠの場合、入構抑制をせず、授業については「換気確保の上、収容定員で運用・可」と記載されているが、水痘並みの感染力をもつウイルスへの対策としてどの程度の換気が必要か、具体的な根拠とともに数値を示せ。また、収容定員で運用する場合、各建物が実際にその基準を満たしているのか説明せよ。
4. デルタ株は強い感染力をもつが、貴法人が講じる感染症対策では十分でないと考える学生・教職員、とりわけ、基礎疾患があるわけではないが感染に不安を覚える者に対してどのような対応をするつもりか回答せよ。

5. 貴法人が対面授業を強行するのは学生がそれを強く望むからであると本組合は認識しているが、実際にはアンケート結果からも明らかなとおり、対面授業を望まない学生も少なくない。学生の保護者が対面授業を望まないケースも存在する。感染リスクがある状況で対面授業を望まない学生に対面授業を強要することなどあってはならない。感染リスクを考えて自宅等から受講するという学生の選択肢を確保せよ。診断書等を提出した学生に個別に対応するというのでは意味がない。基礎疾患がなく診断書を提出することができない学生にとっては、不安ではあるが仕方ないので大学に来るといふ選択肢しかない。個別対応は学生の選択肢を実質的に奪うものであるということを認識せよ。

念のため申し添えるが、これは義務的団交事項である。入構者数が少なくなれば教職員の感染リスクも減少する。ウレタンマスクの学生が談笑する中で勤務しなければならぬ教職員のリスクを直視せよ。
6. ステージ表では、従来のものにはなかった入構者割合の数値が記載されている。4月23日の団体交渉で、逵法人本部長はこの数値について、あくまでも目安であり各学部の判断は相当程度尊重されるという趣旨の発言をしたが、現在でもこの数値を目標値として捉える学部が存在する。目標値ではないということを各学部へ周知せよ。
7. なお、集中講義等、夏期休暇中の授業や資格講座において対面授業が予定されているという情報がある。正規の授業であるかどうかにかかわらず、学内で行われる授業に対して貴法人が学生・教職員の安全を最優先するのは当然のことであり、通常の授業と同様、対面授業を強行しないということを確認したい。

全理事、およびコロナ対策の責任者の出席を求める。回答は一週間以内とする。

以上